２０２６年１０月の天候（山形県）

目　　次

1　天候経過

2　日々の気圧配置

3　気候統計値

4　気象経過図

5　気象分布図

6　極値・順位値更新表

7　その他

山 形 地 方 気 象 台

本資料に関する問い合わせ先

山形地方気象台

ＴＥＬ　023-622-0632

[注意事項]

本資料に掲載されている観測値は断り書きがない限り、山形は気象官署、酒田、新庄は特別地域気象観測所、鶴岡・長井・米沢は地域気象観測所の観測値を使用しております。資料中の観測値は、後日、内容を訂正・追加する場合があります。

なお、本資料の著作権は山形地方気象台が有しています。掲載されているデータや図表を利用する場合は「山形地方気象台の資料に拠った」旨記載してください。

また、営利を目的に増刷など行う場合は所定の手続きに拠るものとします。

１　天候経過（２０２６年１０月）

【今月の特徴】

○庄内で大雨

・酒田、櫛引、狩川、鶴岡、差首鍋で 21 日に日降水量の多い方からが、10 月として 1 位を更新した。
・酒田で、21 日に月最大 24 時間降水量が、10 月として 1 位を更新した。
・28 日に、月山、旭岳，雁戸山、瀧山で初冠雪を解析した。

【概況】

月

期間前半は、高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、期間後半は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。また、上空の寒気が強まった 22 日、28 日は山岳部で雪となった。

月平均気温は、高く、村山・庄内・最上はかなり高い所があった。月降水量は、村山・置賜・最上は平年並から少なく、最上はかなり多い所があった。庄内は多く、かなり多い所があった。月間日照時間は、村山・置賜・最上は平年並から多く、庄内は平年並から少ない。

上旬

この期間、前線や気圧の谷の影響を受け曇りや雨の降る日があったが、高気圧に覆われ晴れる日が多かった。

旬平均気温は、村山・置賜・最上は平年並から低い。庄内は平年並から高い。旬降水量は、かなり少ない。旬間日照時間は、村山・庄内・最上は多く、村山はかなり多い所がある。置賜は平年並から多く、かなり多い所がある。

中旬

この期間、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。

旬平均気温は、村山・庄内・最上はかなり高く、置賜は高い。旬降水量は、平年並から多い。旬間日照時間は、村山・庄内・最上は平年並から多く、最上はかなり多い所があった。置賜は多く、かなり多い所があった。

下旬

この期間、高気圧に覆われて晴れの日もあったが、低気圧や気圧の谷及び寒気の影響で、雨や曇りの日が多かった。21 日と 31 日は、庄内北部を中心に大雨となった。また、上空の寒気が強まった 22 日、28 日は山岳部で雪となり、28 日は月山など多くの山で初冠雪を解析した。

旬平均気温は、高く、村山・庄内はかなり高い所があった。旬降水量は、村山・置賜は平年並から多く、庄内・最上は多く、かなり多い所があった。旬間日照時間は、村山・置賜・最上は少なく、かなり少ない所があった。庄内はかなり少ない。

２　日々の気圧配置（２０２６年１０月）

１日：高気圧が、日本の東にあって東へ移動する。一方、低気圧が沿海州からオホーツク海に進み、前線が北日本を通過する。
２日：高気圧が、中国東北区にあってゆっくり東へ移動する。一方、気圧の谷が、東北地方を通過する。
３日：高気圧が、中国東北区から日本海に移動する。
４日：高気圧が、日本海から日本の東に移動する。東北地方は、気圧の谷の影響を受ける。
５日：低気圧が、日本海にあって、北東へ進む。
６日：低気圧が、日本海からオホーツク海に進み、前線が北日本を通過する。
７日：高気圧が、日本付近を緩やかに覆う。
８日：高気圧が、本州付近を覆う。
９日：高気圧が、本州付近を覆う。
１０日：高気圧が、本州付近を覆う。
１１日：高気圧が、沿海州にあって北日本を覆う。
１２日：高気圧が、サハリン付近から千島の東に移動する。
１３日：高気圧が、千島の東にあって北日本を緩やか覆う。
１４日：低気圧が、日本海からサハリン付近に進む。また、前線が北日本を通過する。
１５日：高気圧が、東シナ海にあって日本付近を緩やかに覆う。一方、気圧の谷が東北地方を通過する。
１６日：高気圧が、中国東北区にあって本州付近に張り出す。一方、気圧の谷が東北地方を通過する。
１７日：高気圧が、中国東北区から日本海に移動する。
１８日：高気圧が、日本海から日本の東に移動する。
１９日：低気圧が、日本海から千島近海に進む。また、前線が東北地方を南下する。
２０日：前線が、東北南部から東日本に南下する。
２１日：低気圧が、日本海から北海道付近に進み、寒冷前線が本州を通過する。
２２日：高気圧が、黄海から日本海に移動する。一方、北日本では寒気や気圧の谷の影響を受ける。
２３日：高気圧が、本州付近を覆う。
２４日：前線が、東シナ海から東海地方にのびている。また、気圧の谷が、東北地方を通過する。
２５日：低気圧が、関東の東海上から日本の東に進む。また、東シナ海から東日本にのびる前線が、次第に南下する。
２６日：前線が、西日本から伊豆諸島付近を通って、日本の東にのびている。
２７日：低気圧が、関東の東海上から日本の東に進む。また、北日本は気圧の谷となる。
２８日：高気圧が、華北から黄海に移動している。一方、低気圧が千島近海を北東へ進む。北日本は西高東低の気圧配置となる。
２９日：高気圧が、本州付近を覆う。一方、東北地方を気圧の谷が通過する。
３０日：日本付近は、気圧の谷となっている。
３１日：低気圧が、日本海からオホーツク海に進む。また、気圧の谷が北日本を通過する。

３　気候統計値（２０２６年１０月）

・2026年10月の平均気温、降水量、日照時間

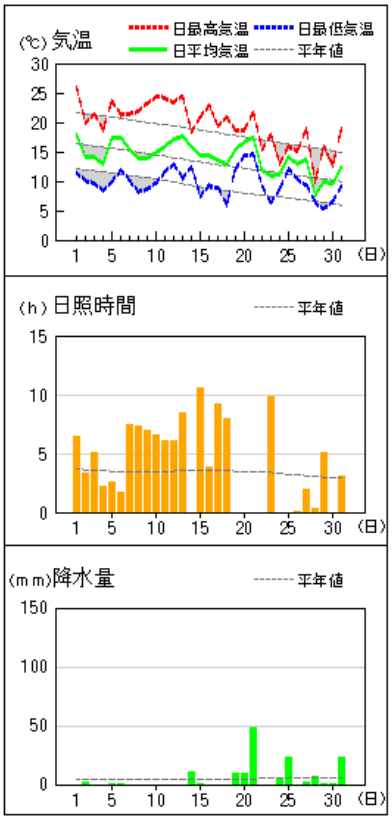
		平均気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（ｈ）		
		本 年	平年差（℃）	階級区分	本 年	平年比（%）	階級区分	本 年	平年比（%）	階級区分
山形	上旬	16.7	+0.3	平年並	0.5	1	かなり少ない	63.1	153	かなり多い
	中旬	16.7	+2.5	かなり高い	17.5	55	平年並	61.1	135	多い
	下旬	12.8	+0.8	高い	29.5	80	平年並	27.8	61	かなり少ない
	月	15.3	+1.2	かなり高い	47.5	45	少ない	152.0	115	多い
酒田	上旬	18.1	+0.4	平年並	8.5	14	かなり少ない	55.5	119	多い
	中旬	18.3	+2.7	かなり高い	67.5	112	平年並	57.0	120	多い
	下旬	14.5	+0.8	高い	209.0)	303	かなり多い	18.3	42	かなり少ない
	月	16.9	+1.3	かなり高い	285.0)	151	かなり多い	130.8	96	平年並
新庄	上旬	15.2	－0.3	平年並	3.0	6	かなり少ない	49.6	142	多い
	中旬	15.4	+2.3	かなり高い	30.0	69	平年並	52.3	145	かなり多い
	下旬	12.0	+0.9	高い	112.5]	174]	多い	20.4	58	少ない
	月	14.1	+0.9	高い	145.5)	93	平年並	122.3	117	多い
米沢	上旬	15.6	－0.3	平年並	0.0	0	かなり少ない	58.9	144	かなり多い
	中旬	15.2	+1.6	高い	35.5	99	多い	59.4	133	多い
	下旬	12.3	+1.0	高い	40.0	92	平年並	31.1	70	少ない
	月	14.3	+1.0	高い	75.5	64	平年並	149.4	115	多い

注】次の表示　X:欠測　):準正常値　]:資料不足値　－:現象なし　（平年値は1991～2020年の平均値）

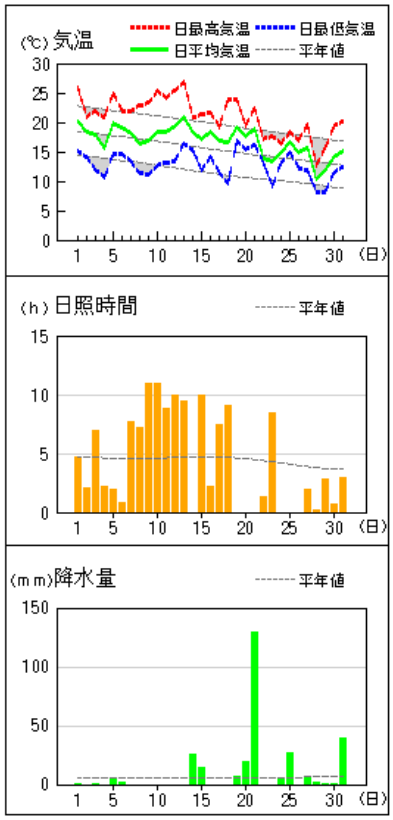
４　気象経過図（２０２６年１０月）

アメダス　気象経過図：2026年10月01日-2026年10月31日

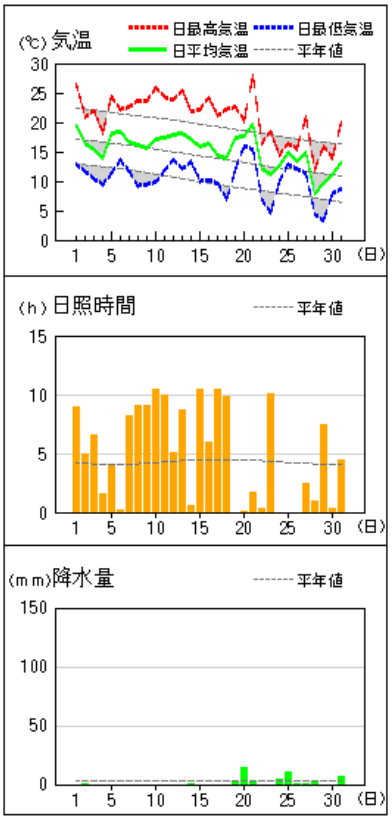
新庄



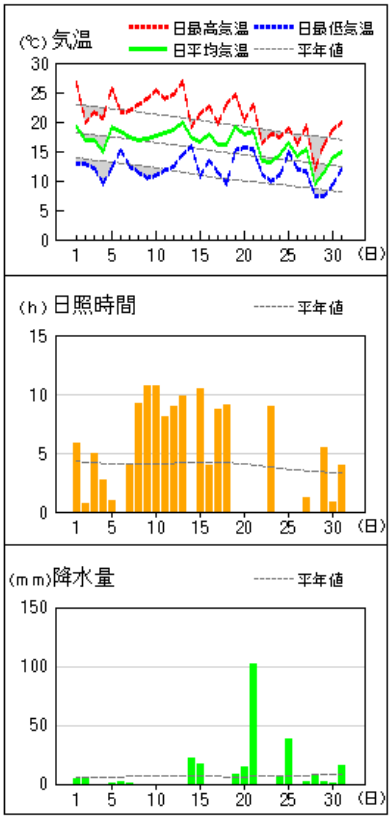
酒田



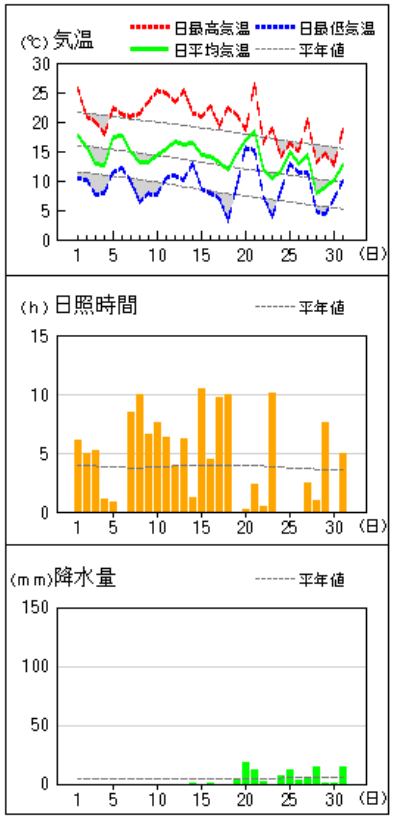
山形



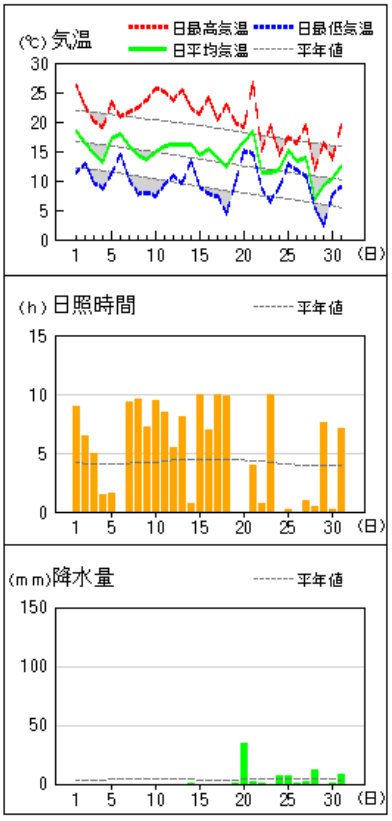
鶴岡



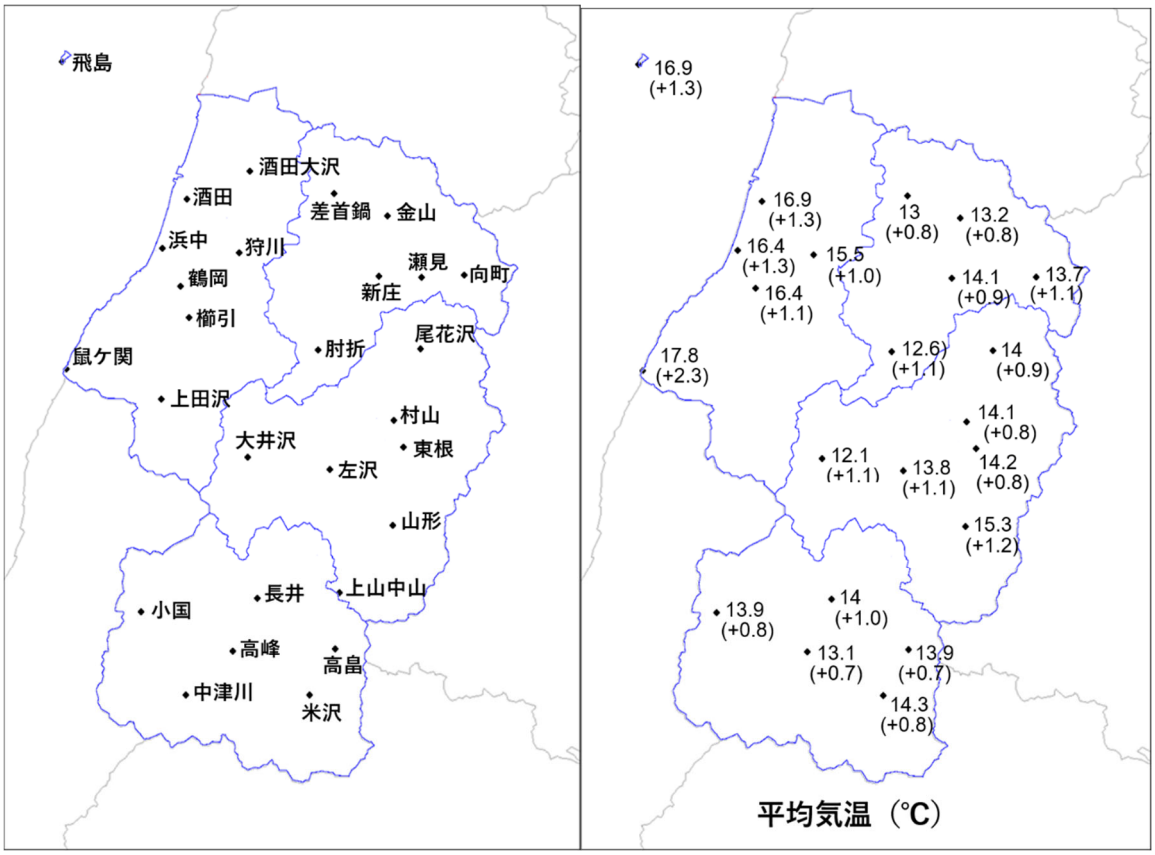
長井

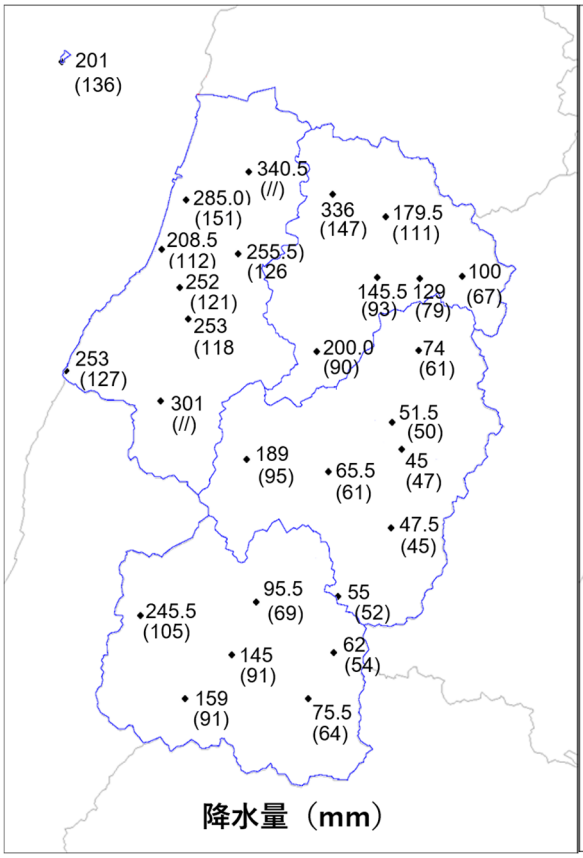


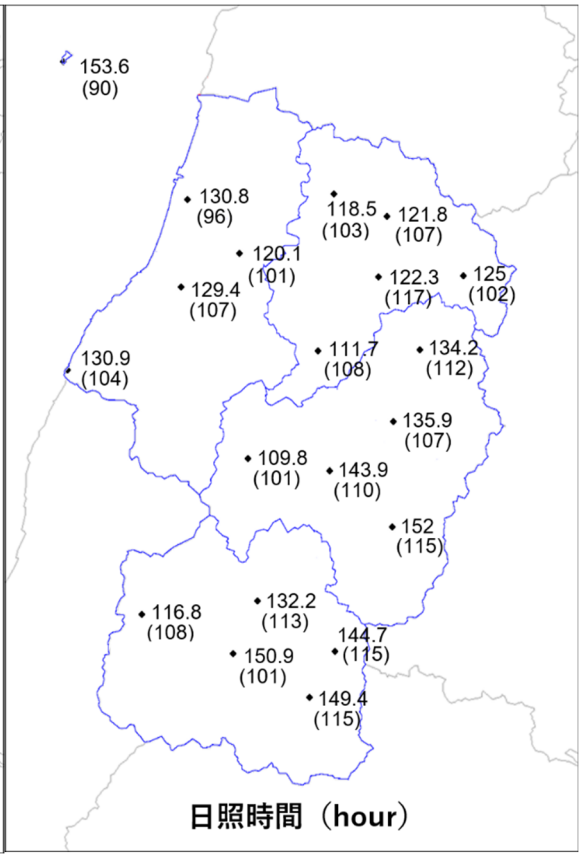
米沢



５　気象分布図（２０２６年１０月）







注】Xは欠測、）は準正常値、]は資料不足値を示す。
平均気温の（　）内は平年差(℃)、降水量の（　）内は平年比(%)、日照時間の（　）内は平年比(%)を示す。
//は平年値なし。平年値は1991～2020年の平均値。

６　極値・順位値更新表　（２０２６年１０月）

気象官署及び特別地域気象観測所（山形・酒田・新庄）：10 月として 1 位～3 位更新を記載

要素名 （単位）	地点名	観測値	順位	観測日	統計開始
月最大 24 時間降水量（mm）	酒田	129.0	1	21 日	1962 年
日降水量の多い方から（mm）	酒田	129.0	1	21 日	1937 年
月平均気温の高い方から （℃）	酒田	16.9	3	－	1937 年

地域気象観測所（山形・新庄・酒田除く）：10 月として 1 位更新を記載（統計期間 10 年以上）

要素名 （単位）	地点名	観測値	順位	観測日	統計開始
日降水量（mm）	櫛引	92.0	1	21 日	1977 年
	狩川	90.5	1	21 日	1976 年
	鶴岡	101.5	1	21 日	1976 年
	差首鍋	138.0	1	21 日	1977 年

※同じ値（タイ記録）の場合は起日の新しい方を上位とする

７　その他

○季節現象観測

気象庁では、雪・冠雪の観測・解析を行っています。2027 寒候年（2026 年 8 月から 2027 年 7 月までの期間）に初めて現象を解析した日を「初冠雪」などとしてお知らせしております。

【初冠雪】（２０２６年１０月）

対象の山	2027 寒候年
月山	10 月 28 日
朝日岳	10 月 28 日
鳥戸山	10 月 28 日
瀧山	10 月 28 日

※気象庁では、2026 年度の寒候年より「初冠雪」を目視による観測から『解析積雪深』を用いた解析に変更しております。詳細は、
https://www.jma.go.jp/jma/press/2607/31a/kansetsu202607.pdf
をご確認ください。

2027 寒候年の季節現象観測の状況は山形地方気象台のホームページでご覧いただけます。
https://www.data.jma.go.jp/yamagata/detail/winter.html

※各種観測値、統計値や平年値及び季節予報は、気象庁ホームページに掲載しています。

【気象資料】 https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php
【気象データのダウンロード(CSV)】 https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php
【季節予報】 https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=060000